

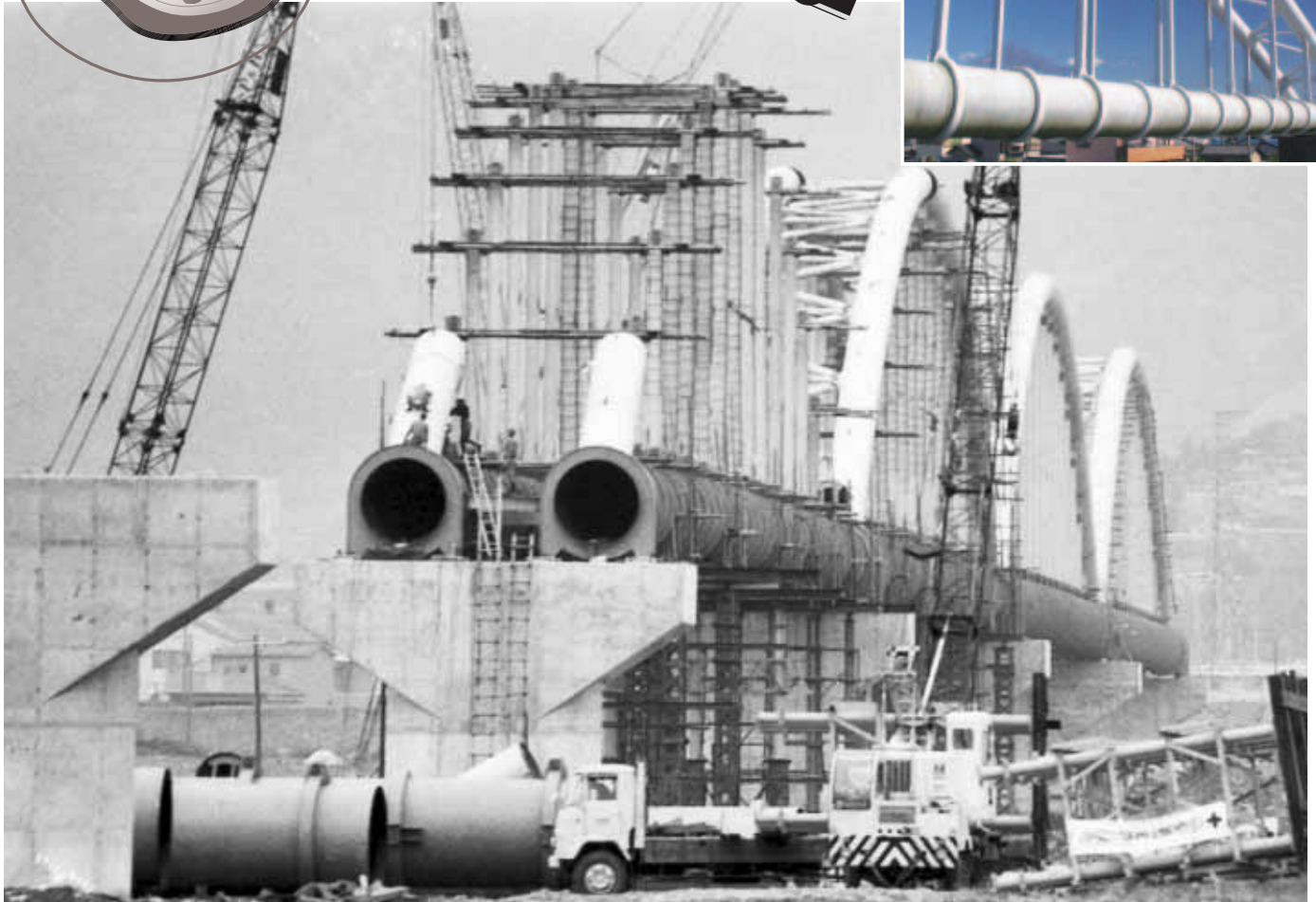
= 17 =

東駿河湾工業用水道 富士川水管橋建設

昭和44年11月



現在、富士川にかかる水管橋の様子



東駿河湾工業用水道

富士川にかかる水管橋は、東駿河湾工業用水道の一部です。この工業用水道は、富士川水系を源とする企業の放水路（蒲原町）より取水し、地下水の保全、市内の工場へと水を供給することを目的としています。昭和四十六年十二月から給水が開始され、一日約六十八万トンの給水能力があります。

地下水の保護と工業の発展を考え

昭和三十年代後半、吉原地区から吉永地区方面にかけて、工場の井戸水に塩水化現象があらわれました。当時、地下水はまだ豊富にあるとの風潮でしたが、適正量を超えた使用により塩水化してしまつた井戸は、元に戻らないことが判明しました。そこで、製紙業を中心とする用水型企業は、全国に先駆け井戸新設などに自主規制を始めました。

一方、市の将来や工業の健全な育成・発展を考えると、工業用水の確保が必要でした。そのため、「東駿河湾工業用水道協力会」が発足、富士川に水管橋がかかることになりました。私には今でも水管橋が伸びゆく富士市の象徴に見えますね。



当時、水管橋建設に携わった

小澤 義弘さん (原田)

こちら編集室

今回の表紙を飾ったイベントに同行取材をしました。岳南鉄道や路線バス、ひまわりバスなどさまざまな公共交通に乗ることができました。久しぶりに乗った岳南鉄道は整理券を取る方式になっていて、まるでバスのような感じでした。新しい発見やふ

だんとは違う風景に、子どもたちと一緒に自分も楽しんでしまいました。公共交通には「ふだんあまり乗らない」と話していた子どもたち。乗り物に乗る楽しさや、ほかの乗客とのふれあいなどを子どもたちにもっと味わってほしいなあと思います。

人口	243,380人 (前月比+7)
男	120,861人 (+12)
女	122,519人 (-5)
世帯	86,323世帯 (+34)

10月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎0545-51-0123(代) ㊟0545-51-1456



平成十六年十一月五日号(毎月五日・二十日発行)

ホームページ <http://fujishi.jp/>

広報ふじは環境に優しい古紙100%の再生紙と大豆油インキを使用しています